

B 1 7 中級～ (TV 聴講あり)	<h2 style="margin: 0;">特許情報検索法（侵害予防調査）</h2> <p style="margin: 0;">侵害予防調査における留意点 ヒアリングから調査報告書作成までのノウハウ公開</p>
講師	酒井 美里 (スマートワークス(株) 代表取締役、元セイコーエプソン(株) 知的財産本部)
日程・会場	東京本会場 → TV会場：JPDS 名古屋、大阪、九州各営業所セミナー室 7月5日(金)、2020年2月14日(金)
時間	1日間(10:00～16:00) // 昼休憩 11:45～12:45
アクセス	http://www.jpds.co.jp/company/access.html
定員	東京本会場 24名 // 各会場共 10名 (先着順申し込み)
受講料(税別)	本会場：20,000円 (TV会場：16,000円)
対象	特許調査担当の中～上級者 ※特許分類が理解できる方
内容	
<p>サンプル出荷・製品発売前の侵害予防調査は、「漏れがあってはならない」「でも、膨大な件数はチェックできない」「結局、この検索式で大丈夫なのか?」と、多くの方が迷いながら調査されている事と思います。本講座では調査の実例を主体に、開発・設計現場とのヒアリング、実際の検索式作成・調査から報告書作成まで、一連の流れに沿ってポイント・注意点を調査のプロが丁寧に解説します。知財の調査実務者、開発・設計部門の調査を担当されていてさらなるステップアップを目指す方に最適です。</p>	
プログラム	
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 一般的な留意点 <ol style="list-style-type: none"> 1. 侵害予防調査で、知財部とサーチャーが意識すべきこと 2. 侵害予防調査の検索式構成 (概要) (他の検索場面との対比説明) 3. 検索式構成の留意点 (概要) (他の検索場面との対比説明) ◆ 侵害予防調査 ケーススタディ <ol style="list-style-type: none"> 4. 事前準備 ～ 発明者・設計担当とのヒアリング 5. 検索式作成上の留意点 (上位概念/下位概念、分類の広さ等) 6. 検索式の作成事例 (分類特定、試行錯誤の過程など、全工程を説明します) 7. 資料抽出のポイント 8. 調査報告書の作成 	

【申込み】

当社ホームページよりお申し込みください。 URL: <http://www.jpds.co.jp/seminar/application.html>

【備考】

- ・ 本講座は、各種特許分類の使い分けができるか、「プロの技に迫る特許情報検索法」講座をすでに受講された方を対象としております。(分類知識がないと、午前中の「検索式構成の留意点(概要)」から話がわからなくなる可能性があり、おすすめできません。)
- ・ セミナーご参加の方で事前にご質問や特に説明をお聞きになりたい内容がございましたらお申出下さい。セミナー当日に可能な限りお答えさせていただきます。

【日本弁理士会継続研修について】

本研修は、日本弁理士会の継続研修としての認定を申請中です。本研修を受講し、所定の申請をすると、外部機関研修として単位が認められる場合があります。ただし、TV会場での聴講の場合には継続研修の認定対象外となります。